

がまごおり「みらいキャンバス」 基本計画説明会

蒲郡市教育委員会 教育政策課

2025.11.23

本日のスケジュール

10:00 | あいさつ

10:10 | 基本計画の説明（45分）

10:55 | 蒲郡南部小学校の発表（15分）

11:10 | 質疑応答（20分）

11:30 | おわりに

基本計画目次

はじめに

第1章 策定の背景

第2章 市民共創

第3章 基本方針

第4章 事業・サービス方針

第5章 施設計画

第6章 管理運営方針

第7章 敷地計画

第8章 事業化計画

おわりに

はじめに

- 令和6年6月に『がまごおり「みらいキャンバス」基本構想』を策定
- がまごおり「みらいキャンバス」プロジェクトは、図書館機能、ホール機能、生涯学習センター機能を複合化する「全市利用型施設リーディングプロジェクト」
- 単なる複合化ではなく、これからの時代にふさわしい施設に生まれ変わらせる
- 基本計画は、より具体的な事業・サービスや機能、運営の方向性を整理し、基本設計、実施設計、管理運営計画へと引き継ぐもの



ホール
図書館
子育て
生涯学習
カフェ

がまごおり「みらいキャンパス」とは、
みんなの居場所と活動の場を、
市民と共に描くプロジェクトです。



学ぶ

発信する

出会う

くつろぐ

GAMAGORI MIRAI CAMPUS

第1章 策定の背景

本計画の位置づけ

上位計画等

計画	関連部分の概要
第五次蒲郡市総合計画 【令和3(2021)年6月】	まちづくりの基本理念「人と自然との共生」「安全・安心・快適」「一人ひとりが 主役」「つながる」
蒲郡市公共施設マネジメント実施計画 【令和4(2022)年3月改訂】	「全市利用型施設におけるリーディングプロジェクト」として、蒲郡駅周辺エリ アでの機能融合により、市民の居場所となる場を形成する

本計画の位置づけ

関連計画等

導入する機能に関する計画

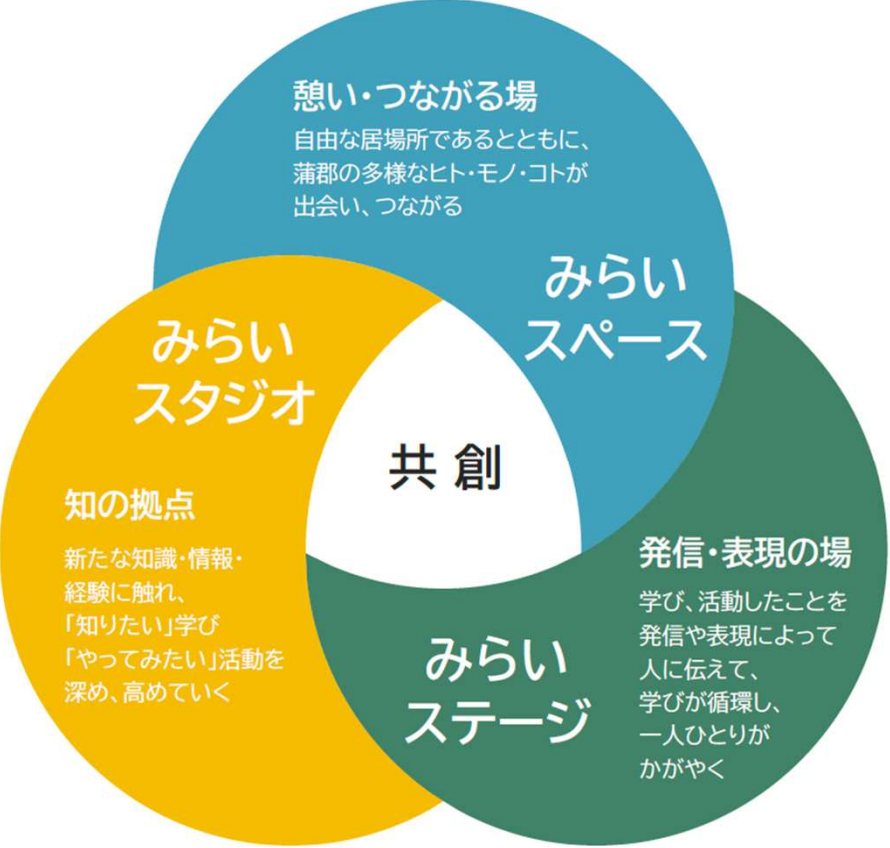
蒲郡市生涯学習推進計画
社会教育4施設のあり方
蒲郡市公民館のあり方について
蒲郡市こども総合計画

蒲郡市全体のまちづくり・都市計画・市民生活等に関する計画

蒲郡市イネーブリングシティ基本計画	健康がまごおり21 第3次計画
蒲郡市地域強靱化計画	蒲郡市観光まちづくりビジョン
サーキュラーシティ蒲郡アクションプラン	蒲郡市産業振興ビジョン
蒲郡市まち・ひと・しごと創生総合戦略	蒲郡市東港地区まちづくりビジョン
蒲郡市まちづくりDX基本方針	蒲郡市都市計画マスタープラン
蒲郡市多文化共生推進プラン	蒲郡市立地適正化計画
第2次蒲郡市地球温暖化対策実行計画 (区域施策編)	蒲郡市緑の基本計画
	蒲郡市景観計画
	ほか

基本構想の振り返り

基本理念・施設コンセプト



図：共創を目指す「未来キャンパス」の
3つの基本的な役割

- 市民が気軽に集い、ふれあい、にぎわうことを
市民一人ひとりが自ら生み出し、共につくる

基本理念＝「共創」

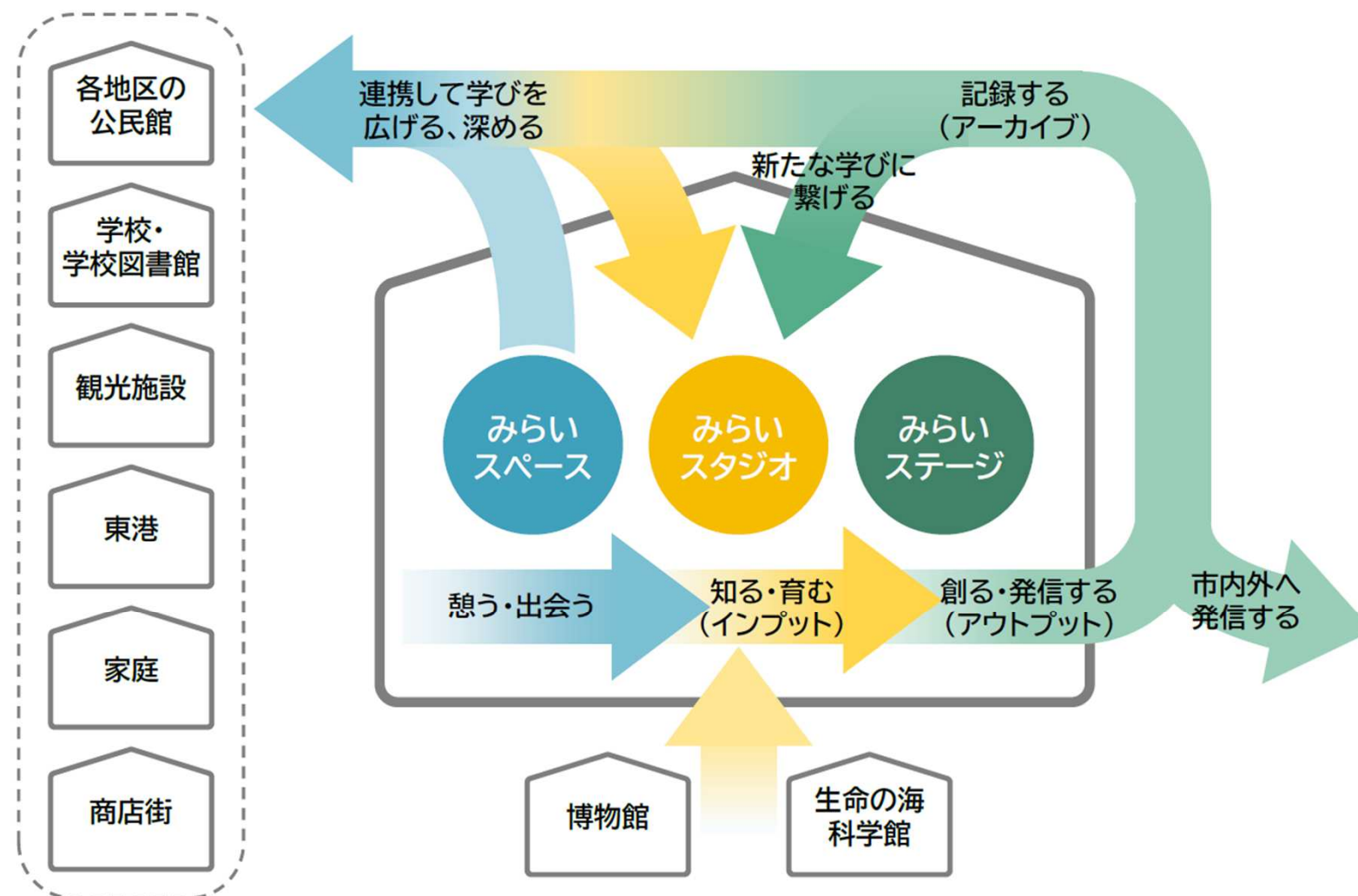
- 市民一人ひとりがここで夢をもって「未来」を
描ける

施設コンセプト及びプロジェクト名

がまごおり「未来キャンバス」

基本構想の振り返り

学びの循環



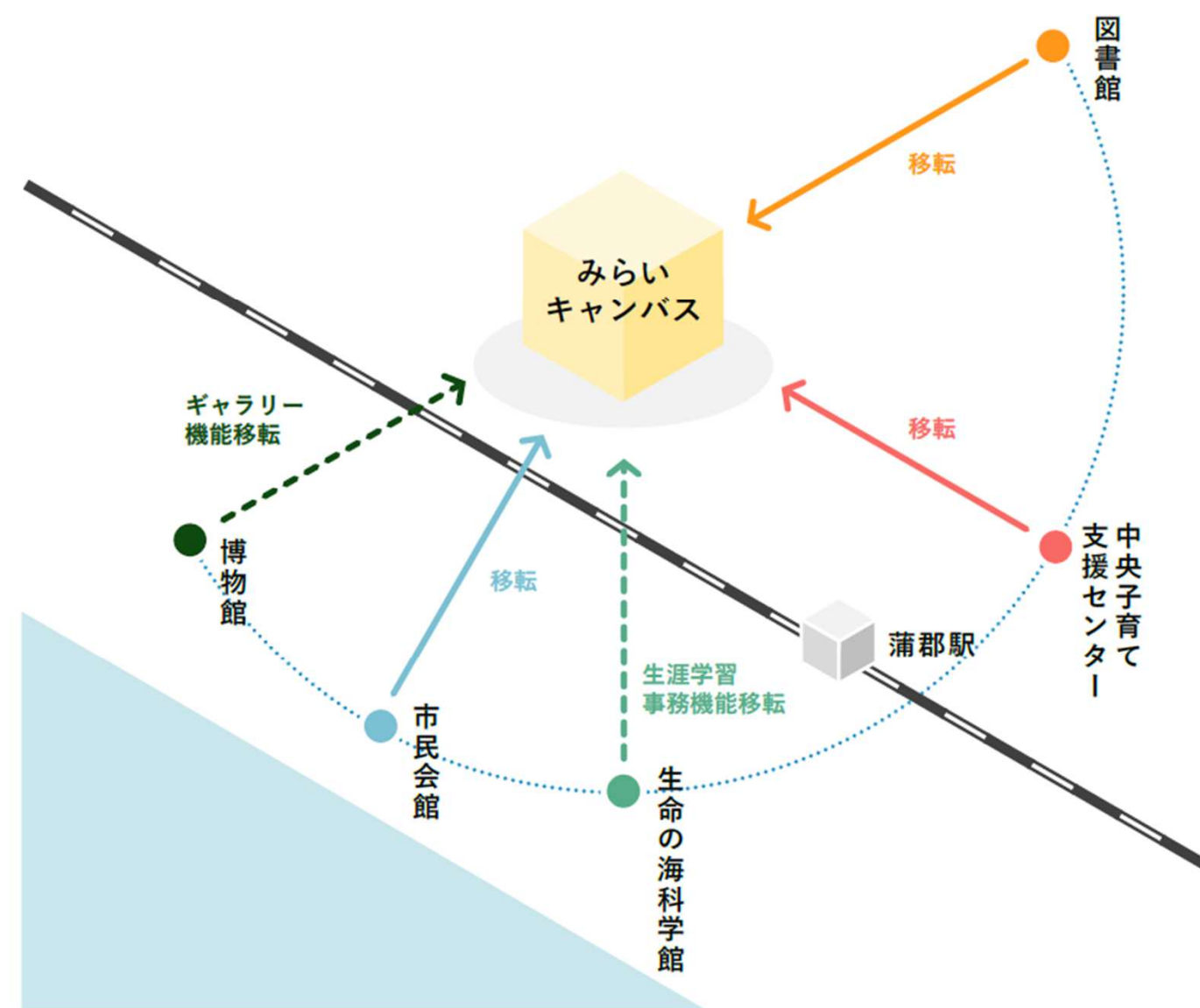
- 人や情報と出会う→新しく学び、活動を育む→活動したことを自分らしく発信する→発信を記録する→記録をみた人が新しく人や情報に出会う
- 他施設とも連携し、学びと出会う場を拡げていく

基本構想の振り返り

導入機能の目指す方向性

施設全体	誰もが心地よく憩える“サードプレイス” (自宅、学校・職場以外の居心地の良い第3の居場所)
図書館機能	インプットされた学びを、活動を通じて発信し、 アウトプットする学びもできる“みらいにつなげる知の拠点”
ホール機能	文化芸術に触れ“多様な学び・価値観に出会う場” 音楽や学びの活動を市民自ら“表現・発信する舞台”
生涯学習センター機能	多様な生涯学習活動の情報のハブ機能を備えた、 市民同士の輪・繋がりを広める“学び・文化活動を支える場”
その他考慮すべき 基本的な機能	中心市街地付近に位置する公共施設としての防災に関する適切な機能 サーキュラーシティ、ゼロカーボンシティの推進のための環境配慮機能

みらいキャンパスに移転する公共施設



全ての機能に移転

- ・ 蒲郡市立図書館
- ・ 蒲郡市民会館
- ・ 蒲郡市中央子育て支援センター

※
解体予定
跡地活用は
別途検討

一部の機能に移転

- ・ 蒲郡市生命の海科学館
- ・ 蒲郡市博物館

既存施設の概要

施設名	開館年	延床面積	施設内容
蒲郡市立図書館	昭和44年 (昭和58～59 年 増築)	1,986.87㎡	ブラウジングルーム、展示室、児童室、調べ学習コーナー、おはなしの部屋、学生室、一般室、会議室、郷土資料室、新着資料コーナー、軽読書コーナー、英文多読図書コーナー、行政資料コーナー、多文化コーナー、第一書庫、閉架書庫、バリアフリースイレ、エレベータ
蒲郡市民会館	昭和48年	13,232.81 ㎡	大ホール(1,598席)、中ホール(516席)、東ホール(315名)、会議室6室、談話室、音楽室、茶室、展示場、レストラン
蒲郡市中央子育て 支援センター 「さんぽ道」	平成4年	99㎡	ベッドコーナー、授乳コーナー、ママごとコーナー、おもちゃコーナー、テラスコーナー、リサイクルコーナー
蒲郡市生命の海 科学館	平成10年	3,297㎡	陸のひろば、海のひろば、実験工作室、サイエンスショールーム、地球ひろば、科学ひろば、展示室、ミュージアムシアター、事務室
蒲郡市博物館	昭和54年	2,364㎡	特別展示室、歴史展示室、民俗展示室、ギャラリー、屋外展示(方墳馬乗2号墳、蒸気機関車D51201)

第2章 市民共創

市民ワークショップ



第1回	令和6年12月22日(日) 33名 「この施設に1日いるとしたら、何をして、どう過ごす？」
第2回	令和7年2月9日(日) 29名 「この施設がまちとつながり、10年後、50年後の蒲郡市がどうなっているか、キャッチフレーズを考える」
第3回	令和7年4月20日(日) 25名 ワーク① 企画書にする、「この施設やまちでやってみたいこと」を選ぼう ワーク② 市民共創のプラットフォームについてグループで話してみよう
第4回	令和7年6月22日(日) 21名 ワーク① みらいキャンバスでやってみたいことをプランにしてみよう！ ワーク② 「拠点」を立ち上げよう！

市民ワークショップ

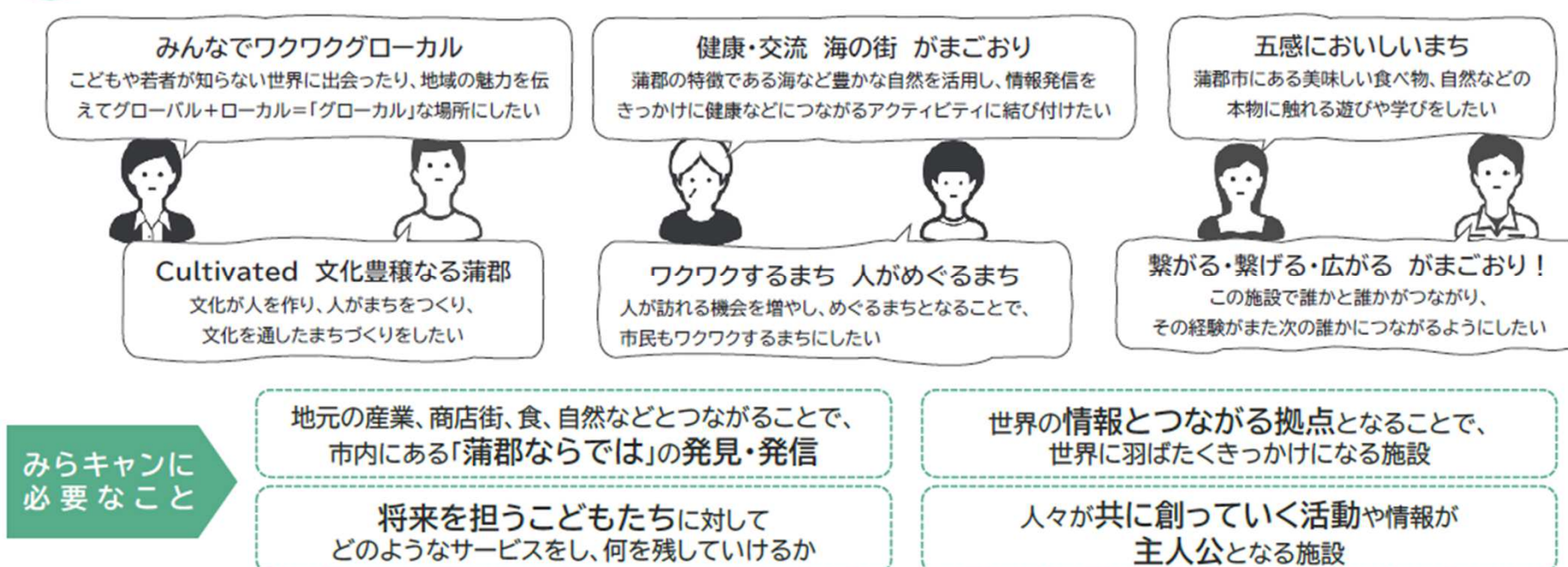
第1回

「施設に1日いるとしたら、何をして、どう過ごす？」から、みらキャンに必要なことが見えてきた！



第2回

キャッチフレーズを考え、施設がどのようにまちとつながったり、成長していくかを考えてみた！



市民ワークショップ

第3・4回

これまでのアイデアをもとに「今から」&「施設で」やってみたいことを「プラン」に！

ワークショップで出された数々の「プラン」！

- ・ がまごおり暮らしコンシェルジュ
- ・ クリエイティブチャレンジ/ふるさと再発見プロジェクト/がまうらライトアップ
- ・ 敷地で活動や空間を感じるプレイベント/はぎれを使ったアート活動・ワークショップ/オープンまでのプロジェクトアイコン&キャッチフレーズ
- ・ 蒲郡マルシェ/ソフト・ハードの情報拠点/フィールドワーク蒲郡
- ・ 居場所の選択肢を増やす/知っていることを共有し、若者から次世代へつたえる学びの循環(「みらいキャンバス」みんなに広げよう！)/他自治体の施設見学
- ・ デジタル交換日記/蒲郡笑顔アルバム/みらキャンユーザーのためのスマホアプリ開発



第3回

活動をつづけるために
必要なものは？

気軽に
集まれる
活動の場

開館までの
継続性が
重要

今から活動していく
拠点(場)が必要！

だから

第4回

「プラン」を実現するための拠点の内容を
具体的に考えてみた！



拠点名

IDOBATA/よもやま
がまごおり/がまらブ
ース/知恵蔵「未来」/未
来たんけん基地/きょう
荘/みらキャンベース、
みらキャンBASE、みら
CANベース



家具・備品

飲食関係/コピー機/
敷物/情報発信用備品
/棚/机・椅子/投影
用機器/パソコン/ホ
ワイトボード/DJブース
など



道具

イベント道具/音響
機材/本棚/デジファ
ブ/プロジェクター
/PC/カメラ/文具/
画材/コーヒーマー
カー/ビールサー
バー など



本・資料

蒲郡関係の資料/地
元が分かる映像資
料/絵本/美術書/地
図 など

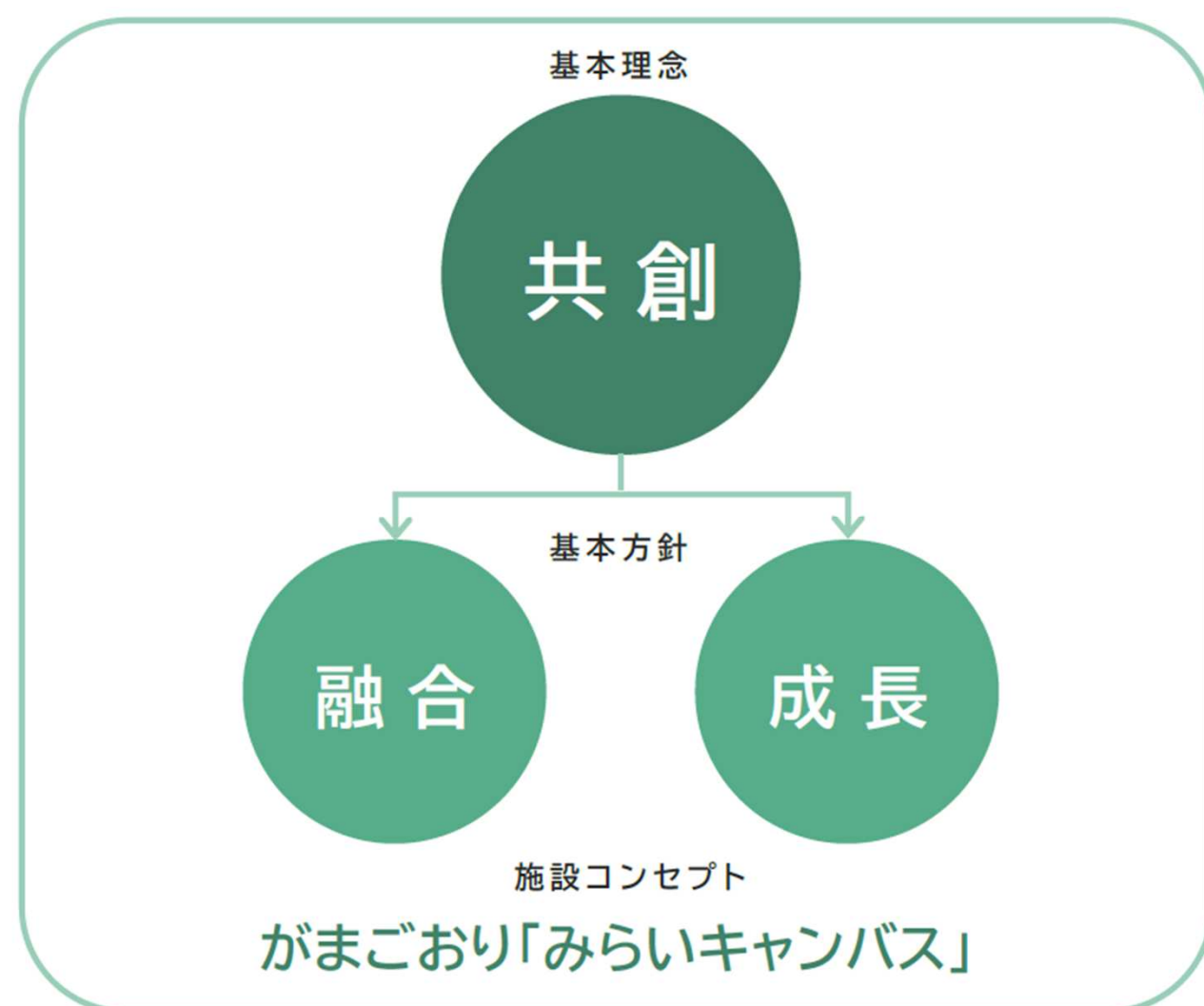
その他 Wi-Fi/お菓子 など

to be continued

これから開館まで、継続的な活動を実施し、
これまで、今、(そしてみらいに)考える「やりたい」を実現する施設を実現しよう！

第3章 基本方針

基本方針



- 施設内のそれぞれの機能は、お互いに連携しながら、柔軟に人々のやりたいという目的に向かって融合する

→融合

- 融合により、人や情報と出会い、記録され、また新たな学びへとつながる（学びの循環）

- 施設内での過ごし方は、世代によって1日の中でも変化、ニーズは時代によっても変化する

→成長

- 施設も運営も一緒に変化できる柔軟かさ、しなやかさを備える

基本方針

基本方針

1 いつも多様な関心・活動と出会える、融合した施設・運営

- 市民が「やりたいこと」を思うままに実現できるよう、枠組みにとらわれず、機能同士、スペース同士を溶け合わせます
- 多様な関心や価値観に触れることで、思いがけない出会いが生まれるよう、空間もサービスも、誰にでも開かれた場を目指します

「融合」

2 いつまでも新たな「やりたい」を描ける、成長する施設・運営

- いまの多様な「やりたい」も、みらいの「やりたい」も実現するために、日常的に空間が可変するとともに、サービス・組織にも柔軟性を持たせます
- 10年後、50年後という時代の変化にも対応できるよう、市民とともにあゆみ、育ち続けていく施設を目指します

「成長」

第4章 事業・サービス方針

事業・サービス方針

事業・サービス方針

01 市民の「やりたい」を実現するために、各機能を創造的に融合させる

融合

成長

- 施設の各機能をシームレスに連携させ、横断的なサービスを提供します
- 専門的な知見を活かしながら、柔軟かつ創造的に機能同士を組み合わせます

02 デジタルも活用しながら、施設内外のヒト・モノ・コトをつなげる

融合

成長

- 多様な資源をつなぐことで、市民の関心や活動が自然に広がっていく環境を整えます
- デジタル技術も活用し、学びの循環の可能性を拡げます

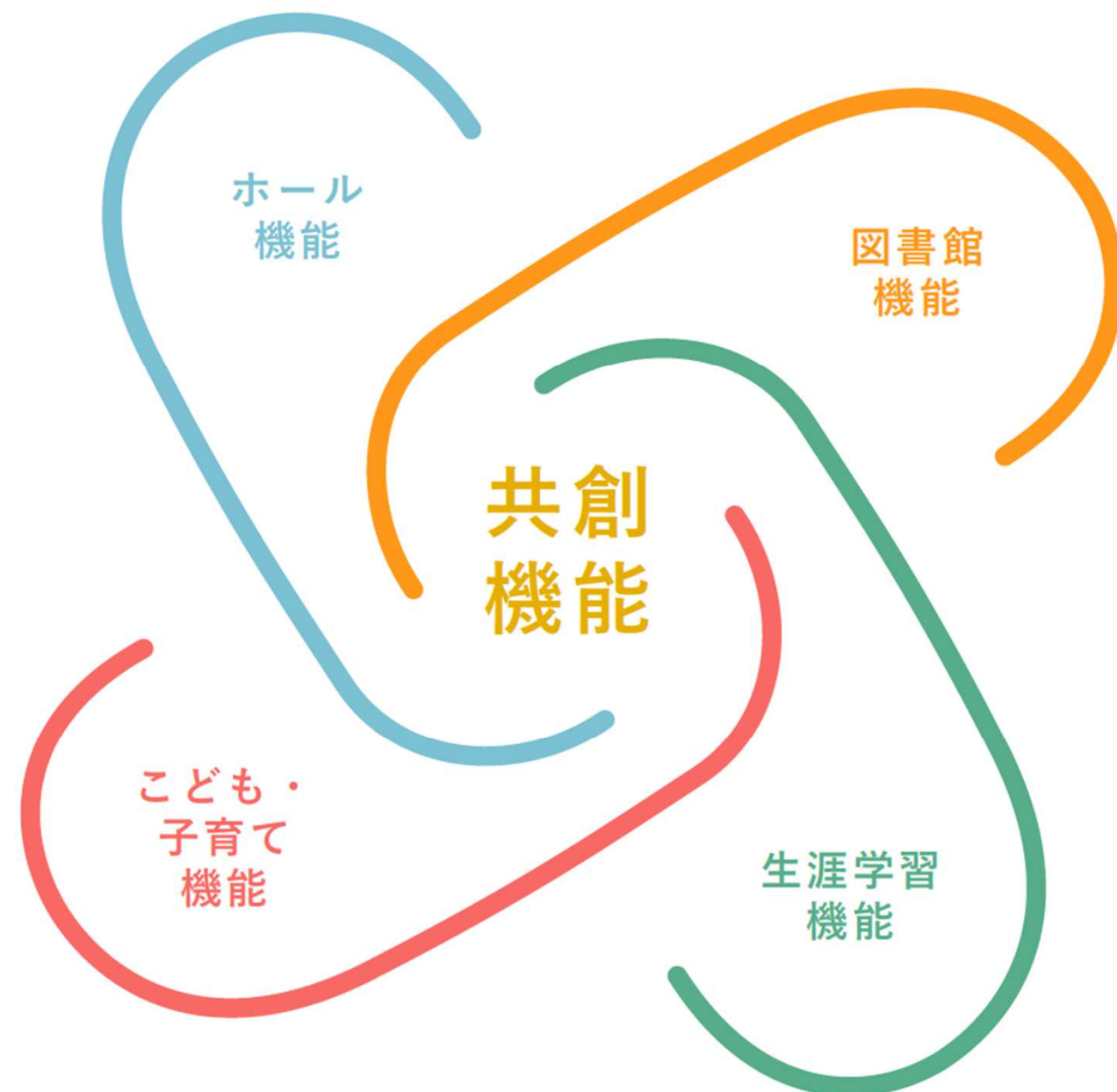
03 市民が、蒲郡のことをより好きになり、蒲郡の未来を描くことができる

融合

成長

- 特徴的な魅力だけでなく、ひそかに育まれてきた地域の魅力もすくい上げ、市民とともに次の世代へつなぎます
- 市民が蒲郡に愛着と誇りを持ち、未来をともに創る活動の拠点を目指します

みらいキャンパスを構成する機能



- 市民のやりたいことを実現するため、図書館機能、ホール機能、生涯学習機能、こども・子育て機能を基本としながら、それぞれの枠を超えてつないでいく
- 4つの機能を横断し融合させることで、これまでにないサービスを生み出し、市民とともに作りあげる



「共創機能」

施設の中心的役割を担う

1 共創機能

市民の多様な活動を支え、これまでにない
新たな出会い・交流を創出する「みらいキャンバス」の核

- 情報発信や活動支援・相談窓口など、市民の学びを支え伴走
- 情報や活動との出会いのきっかけをつくり、ヒト・モノ・コトをつなげるハブ拠点となる
- 学習環境を整えるとともに、訪れやすい施設づくり、支援を行う
- 利用者が使いやすいよう、各機能の窓口サービスを統合

など

主なサービス

情報発信／活動支援、相談窓口／交流促進／若者・こどものつどいの場の形成／多様な学習環境／
地域・企業連携／学び合いの場の創出／貸館管理運営

2 図書館機能

ゆとりのある、居心地の良い空間で、
多様な学び・活動をアウトプットできる自由度の高い“知の拠点”

- 好奇心を拡げアウトプットへとつなぐことができるよう、機能を横断して資料を配置し、施設全体で「学び」を提供
- 静かな空間と賑やかな空間の両方を、メリハリをつけて実現
- ライフステージに寄り添った資料・サービスの提供など、これまでの図書館サービスも継続・拡充するとともに、デジタルの活用なども積極的に実施
- 収容能力25万冊(市全体で30万冊程度)を目指し、開架率を60%に拡充

など

主なサービス

資料収集／学びのネットワークを活かしたサービス／本を活かした空間づくり／デジタルによるサービス拡充

3 ホール機能

多様な活動を表現・発信する、市民が活用しやすい開かれた“共創ホール”

- 文化芸術に触れる体験の提供だけでなく、日常的に多用途に活用できる場
- 適切な鑑賞環境が得られる席数(800席程度)を確保するとともに、周辺スペースと融合、配信等を通してさらに多くの人に鑑賞機会を提供
- 舞台の発表だけでなく、練習室、展示室、学習室、遊び場など多用途に使える200席程度の平土間ホール

など

主なサービス

多目的な活動・体験・鑑賞の創出／市民による発信・表現の場／多用途に利用できるホール

4 生涯学習機能

生涯学習を通じた学習活動を支える“学びの拠点”

- 文化団体の活動を支援し、多くの市民が学びや文化に触れられる機会を提供
- 多様な学びに関する場を提供し、学びを実践することを支援
- 市内の各地域にある地区公民館を指導・支援し、連携を強化、市内全域の学びを支援

など

主なサービス

学びを先導する機能／文化的活動の支援・促進／地区公民館を支える機能

5 こども・子育て機能

こども・子育て世代が、気軽に利用できる“こども・子育て交流広場”

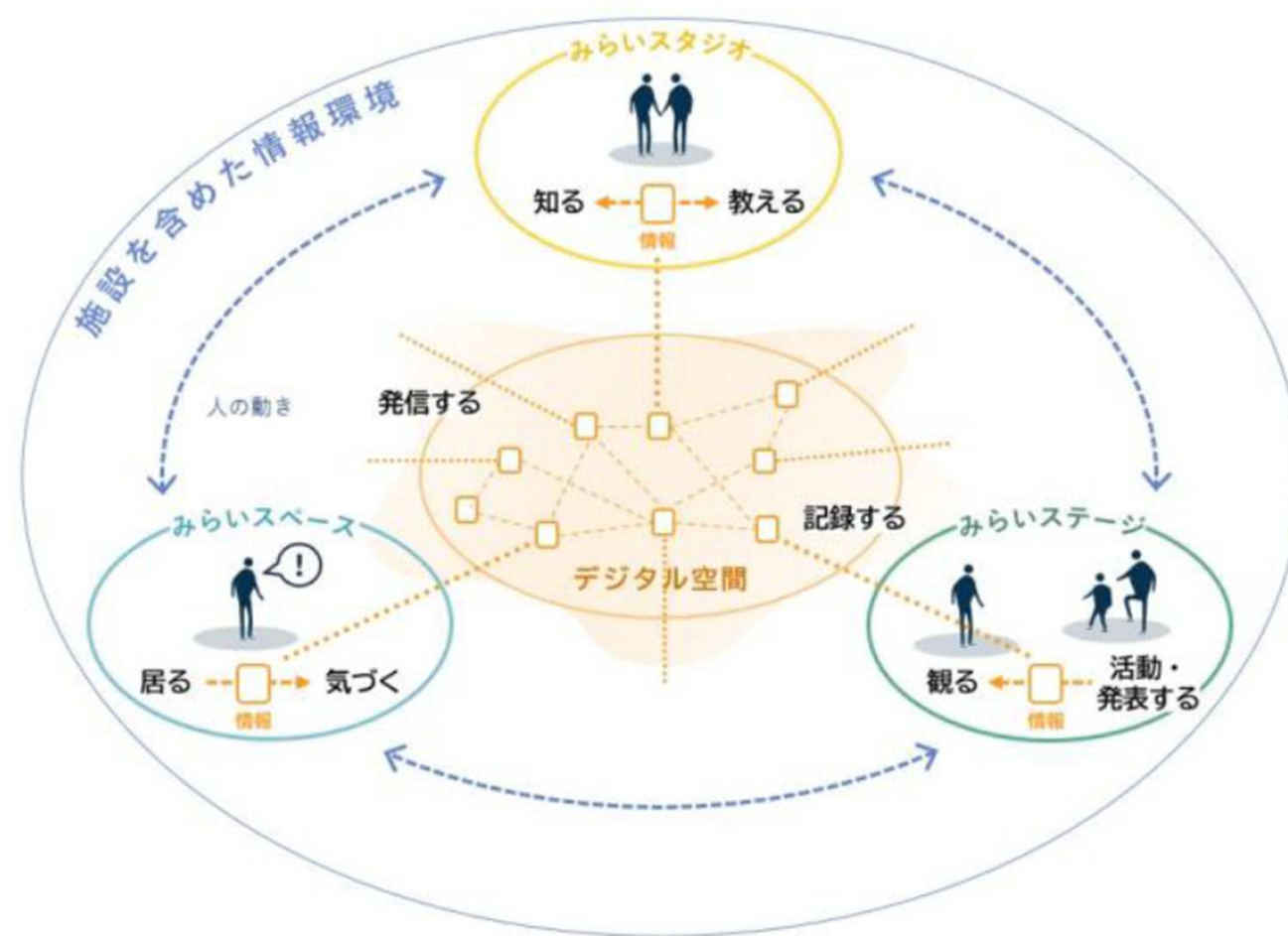
- こども・子育て親子が安心して過ごせる場をつくり、セミナーや活動を通して学びや交流の機会を提供
- 中央子育て支援センターでの事業拡大だけでなく、本施設に複合されるからこそ実現できる事業・サービスに対応

など

主なサービス

こども・子育ての交流の場づくり／こども・子育て相談／こども・子育てに関する情報発信／こども・子育てサポート

事業・サービスを支える情報環境の考え方



- 学び始めるきっかけ、人と人とのつながりを生み出す出発点を情報ととらえ、情報へのタッチポイントを、施設内とデジタル空間の両方につくる
- 多様な活動を収集・記録・発信することで、現在への発信だけでなく、市民の今の興味・活動を未来に向けて蓄積、発信する
- 情報を通じてヒト・モノ・コトに自然と触れ、市民が自分の「やりたいこと」に気づくことができる環境を目指す

第5章 施設計画

整備方針

施設整備方針

01 多様な活動が生まれる「融合」空間の創出

- 多様な活動が相互に刺激を与え、関心が広がるような空間・活動の「見える化」を促します
- 来館者が様々な活動に自然に出会えるよう、施設内外の動線にも配慮します

融合

成長

02 興味の変化に対応し、永く愛される空間の実現

- 多くの興味関心や様々な世代が1日の中でも使用することを踏まえ、使い方に自由度があり、可変性のある空間とします
- 使い方を思いどおりに選択できる空間をつくることで、利活用の創造が膨らむ空間、永く愛される市民の居場所を目指します

融合

成長

整備方針

横断して居場所をつくる/共用部とつながる



共用部に活動がにじみ出す | 須賀川市民交流センター tette

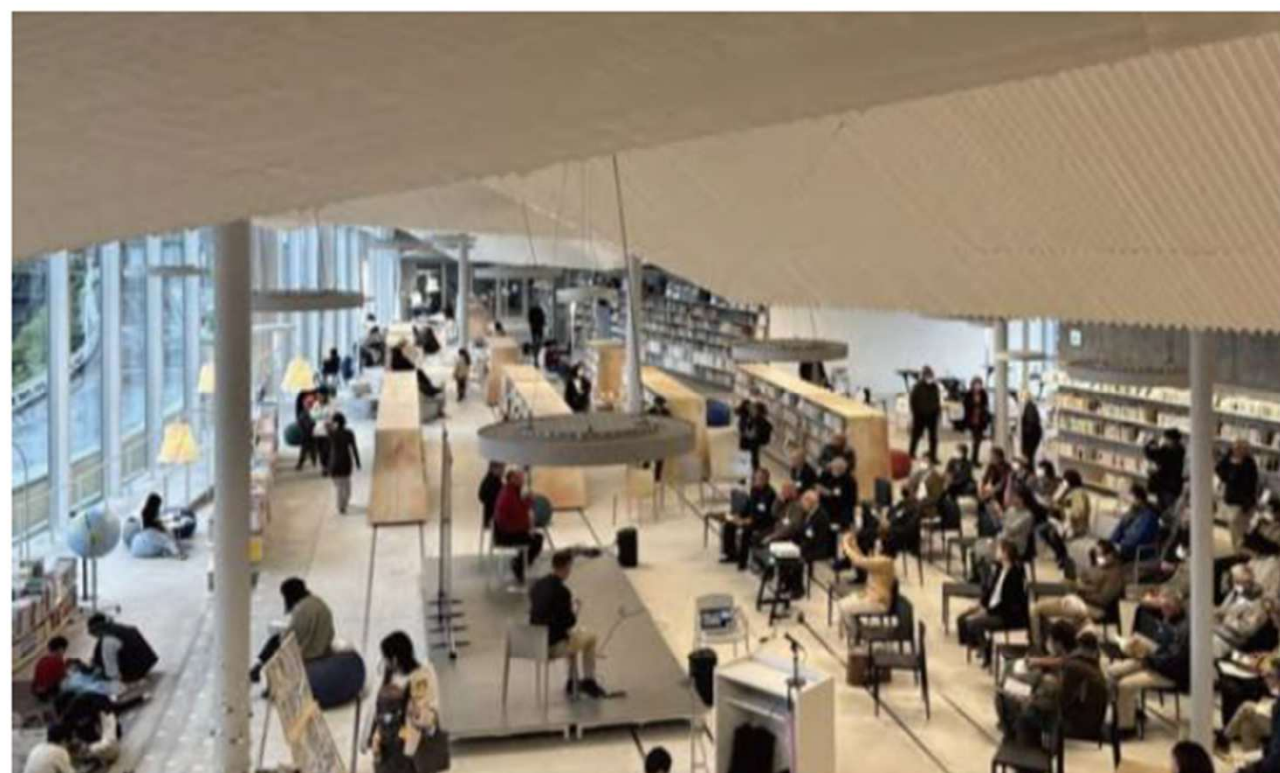
様々な環境の居場所をつくる



多様な居場所を選べる | みんなの森ぎふメディアコスモス

整備方針

場がモードチェンジする



書架の間でイベント開催 | 小千谷市ひと・まち文化共創拠点木下。

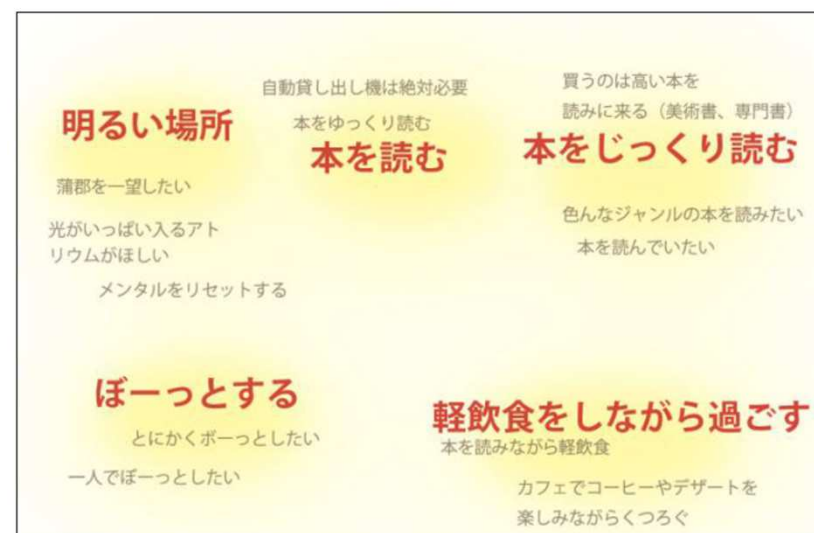
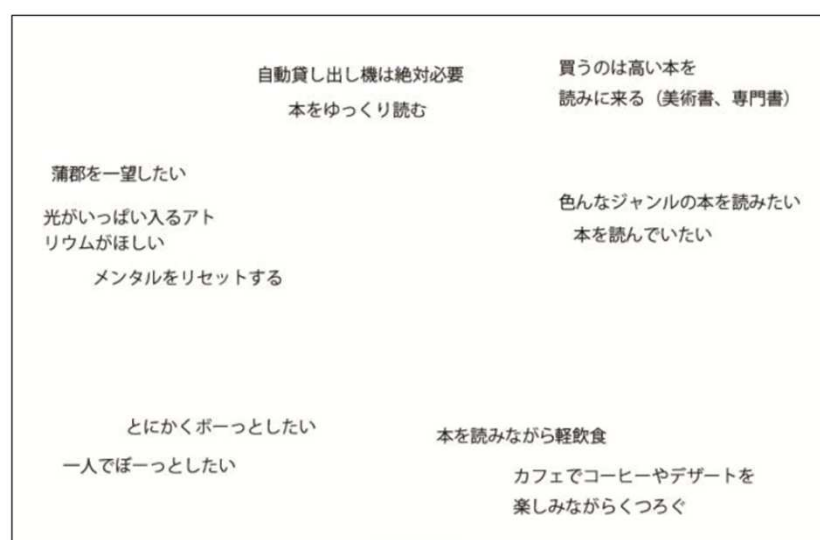
相互に活動が見える



共用部に開かれたアトリエ | 富山県美術館

施設構成

「やりたい」を実現する施設のあり方を考えるために、「部屋」ではなく「場」を設定



① 市民ワークショップで
出た意見を書き出し、
似たもの同士を近くに
並べる

② 近くにあるものを見比
べていくと、活動のか
たまりが見えてくる

③ 活動のかたまりの集合
に、場の名前をつける

施設構成

	みらいスペース 憩い・つながる場 <small>自由な居場所であるとともに、 蒲郡の多様なヒト・コト・モノが出会い、 つながる</small>	みらいスタジオ 知の拠点 <small>新たな知識・情報・経験に触れ、 「知りたい」学び「やってみたい」活動を深め、 高めていく</small>	みらいステージ 発信・表現の場 <small>学び、活動したことを発信や表現によって 人に伝えて、学びが循環し、 一人ひとりがかがやく</small>
ひとりで	ほっと くつろぐ場	じっくり 集中する場	じわじわ 発信の場
だれかと	がやがや おしゃべりの場	わいわい 学び語る場	ガチャガチャ ものづくりの場
みんなで	すくすく 育みの場	わくわく 発見・体験の場	キラキラ パフォーマンスの場

分析をもとに、基本構想で定義した3つの役割について、それぞれ「ひとりで」「だれかと」「みんなで」という活動規模に合わせて細分化、9つの場を設定

みらいスペース

ひとりで

だれかと

みんなで

ほっとくつろぐ場



がやがやおしゃべりの場



すくすく育みの場



過ごし方

- ・本をゆっくり読む 図
- ・飲食をしながら、くつろいで過ごす 共
- ・ただただ、ひとりでぼーっとする 共

- ・キッチンカーやマルシェで購入 共
- ・休憩、軽飲食をしながら過ごす 共
- ・屋外で読書をして過ごす 図

- ・こどもが気軽に来られる こ
- ・遊んで過ごせる（プレイルーム） こ
- ・こどもと絵本を探せる＋読み聞かせ 図

スペース

ラウンジ／ブラウジングスペース

カフェ・ショップ／蒲郡情報コーナー／
屋外広場

プレイルーム／託児室／相談室／
児童開架／お話室／和室／
学習スペース（こども）

みらいスペース

みらいスタジオ

ひとりで

じっくり集中する場



- ・本をじっくり読む (図)
- ・本を探す・借りる (図)
- ・集中して勉強・作業する (共)

だれかと

わいわい学び語る場



- ・本棚や展示のある空間 (共 図 ホ)
- ・誰かから学ぶ、教わる (共)
- ・数人でミーティングをする (共)

みんなで

わくわく発見・体験の場



- ・壁を活用したギャラリー (共 ホ)
- ・ワークショップ、レクチャー (生)
- ・音楽やダンスの練習 (共 生)

みらいスタジオ

過ごし方

スペース

学習スペース／グループ学習室／
無数の本に囲まれた場／予約本コーナー／
対面朗読室

グループ学習スペース／ワークスペース／
ミーティングスペース／ティーンズ

ワークショップスペース／調理スペース／
企画展示コーナー／視聴覚資料コーナー／
地域資料コーナー／多目的ホール／
練習室

みらいステージ

みらいステージ

ひとりで

じわじわ発信の場



過ごし方
スペース

- ・ 市民自ら情報発信を行う **共**
- ・ 施設内外の活動や情報の発信を行う **共 図 ホ 生 こ**

メディアアートギャラリー

だれかと

ガチャガチャものづくりの場



- ・ 工作機器やスペースを使う **生**
- ・ 活動企画やミーティング **共**
- ・ 本棚、台での作品展示 **共 図**

ものづくりスペース

みんなで

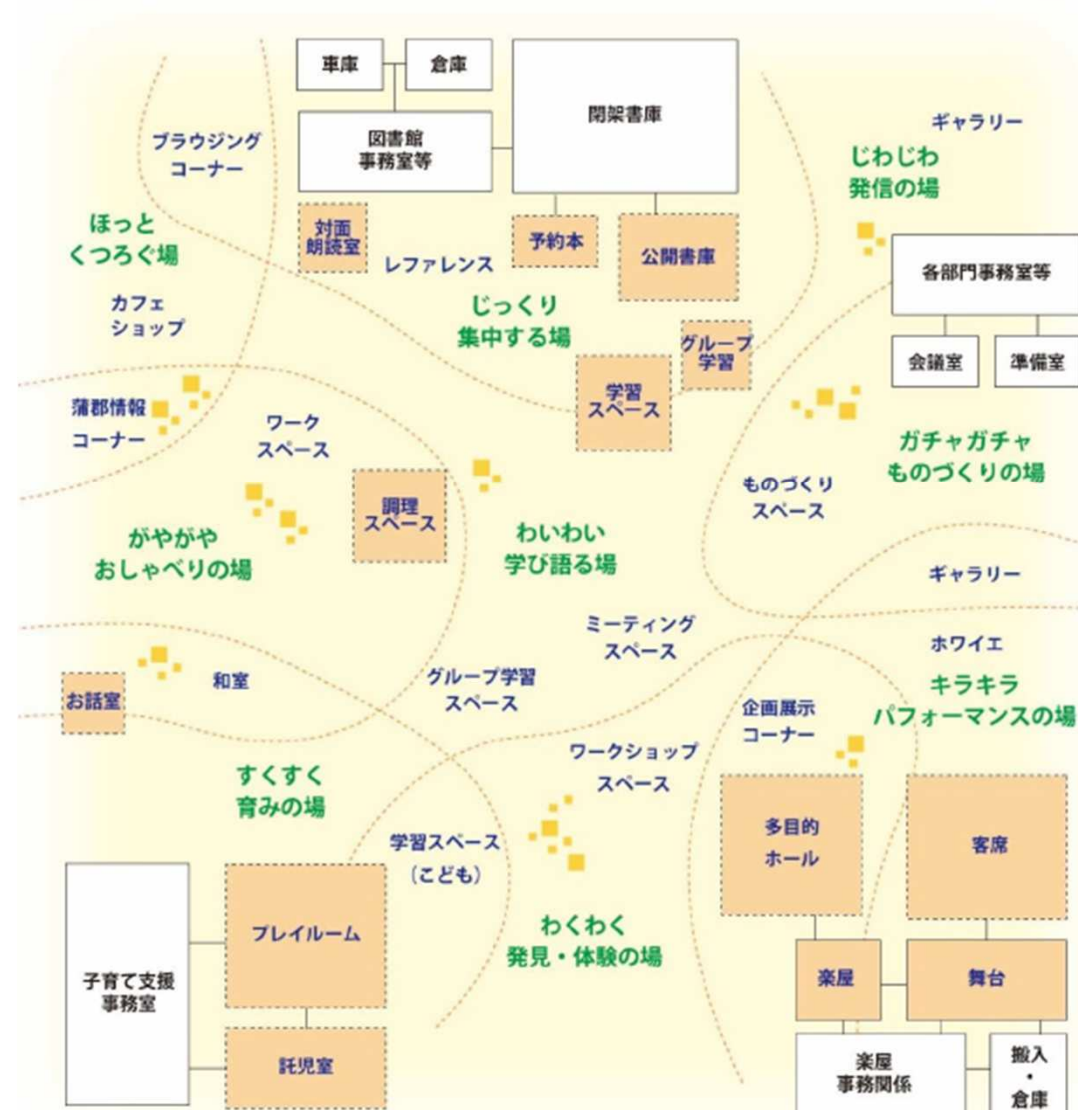
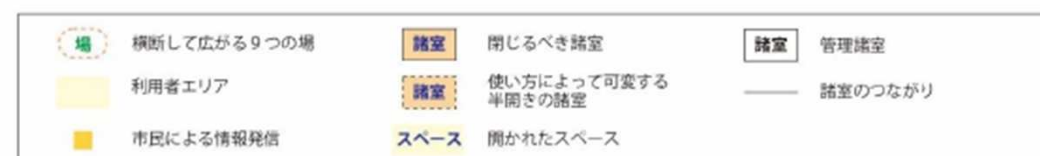
キラキラパフォーマンスの場



- ・ ホールでのパフォーマンス **ホ**
- ・ 通りがかりに気軽に見られる **共 ホ**
- ・ 周辺に関係のある本がある **図**

ギャラリー／メインホール

機能連携イメージ



ゆるやかにつながる9つの場

- それぞれ個別に存在するのではなく、互いに重なり合いながら全体がゆるやかにつながる

閉じる／開くを段階的に設定する

- 閉じる必要がある諸室と使い方によって開き方を調整できる空間を段階的に設定

サービスを支える動線連携

- 管理・運営上の連携をスムーズにするための諸室のつながりをしっかりおさえる

みらいキャンパスの空間イメージ

まちに開かれ、訪れやすい施設

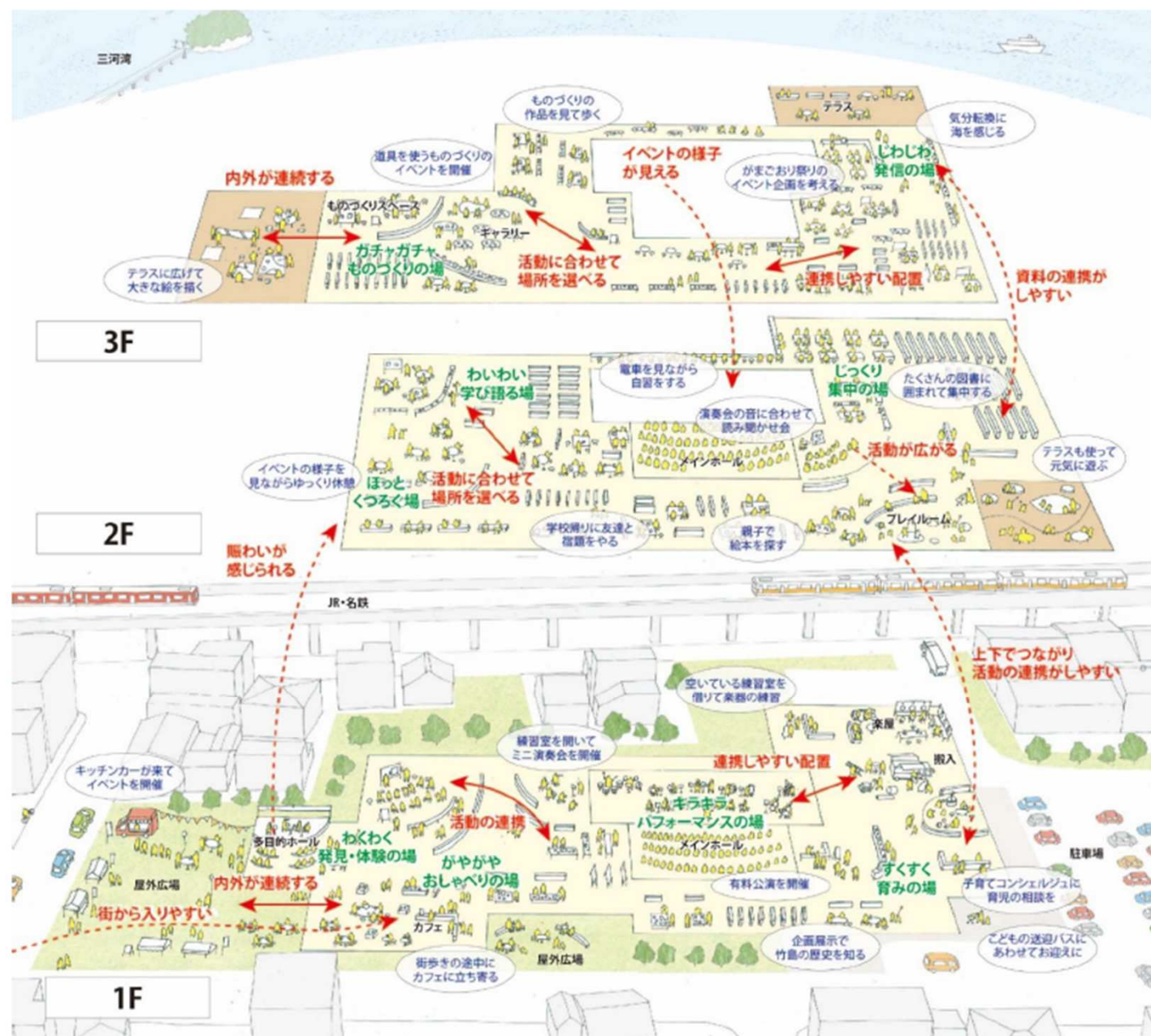
- 1階は気軽に立ち寄れる賑やかな雰囲気広場と一体となったイベントが出来る

施設全体に広がる図書と活動

- 図書館のエリアは、活動と合わせて施設全体に

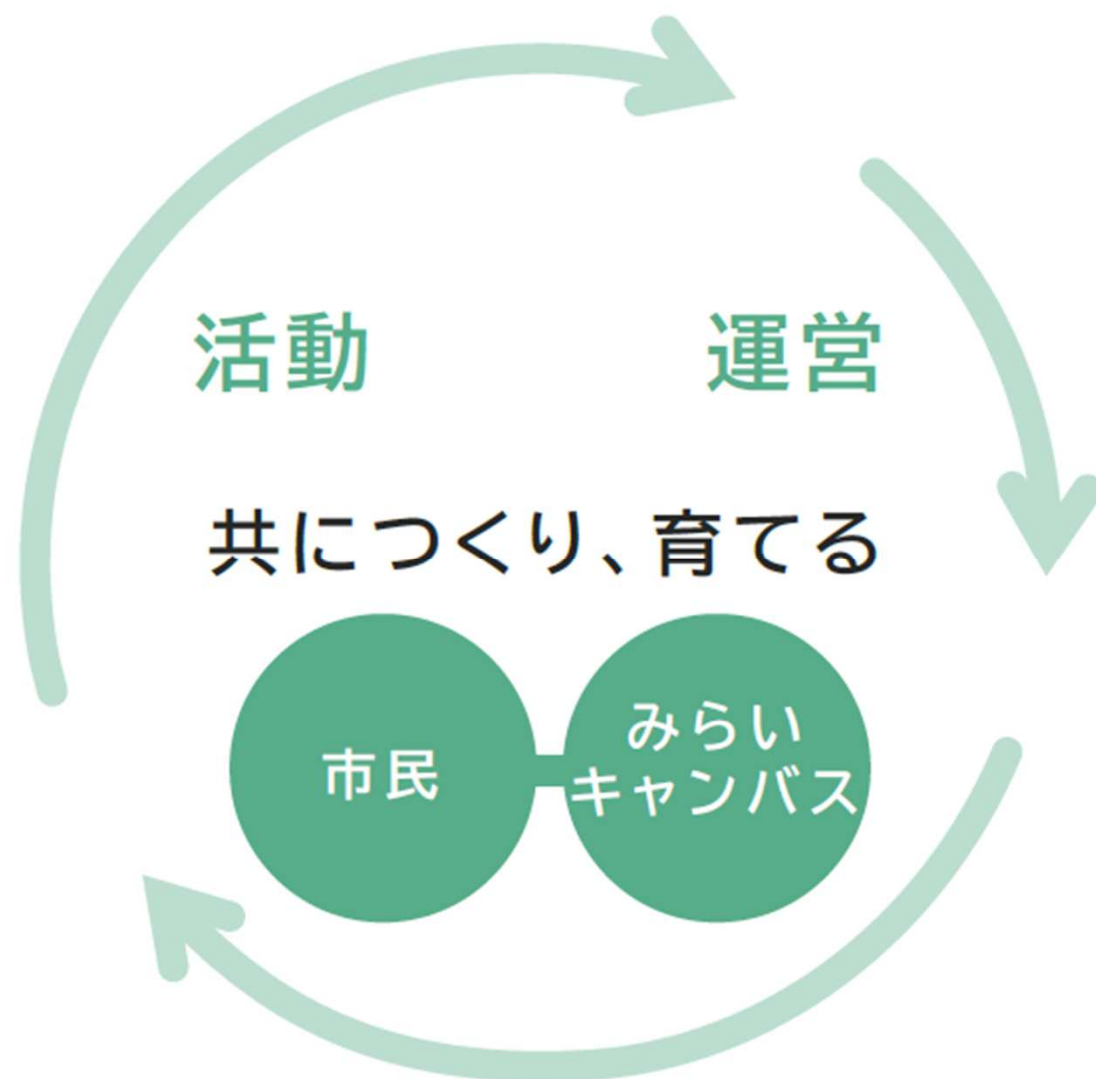
立体的につなぎ、巡りたくなる施設

- 様々な活動の様子が施設のあらゆる場所から感じられる



第6章 管理運営方針

管理運営方針



本施設の運営の前提

- 「融合」「成長」の基本方針のもと、市民と行政が共にづくり、育てていくことを前提とする
- 市民の声や活動を受け止め、施設の機能やサービス、使い方を柔軟に更新・改善していき、常に変化するニーズに応えられる運営を目指す

管理運営方針

管理運営の条件設定

01 融合・成長を分断しない利用時間・利用ルールの設定

融合

成長

- 複合的な機能の連携を最大限に活かすため、利用時間やルールを原則として全体で設定します
- 一部の機能において分ける必要がある場合は、全体の一体性を損なわない工夫を行います

管理運営方針

運営組織方針

01 従来の機能にとらわれず、一体性、横断性のある組織とする

融合

成長

- 担当業務外の内容にも基本的な理解をもった、一体的な運営体制とします
- 情報システムの活用により業務の共有や効率化を図るとともに、状況の変化に応じて組織構成や役割を柔軟に調整できる体制を目指します

02 専門性と多様性を両立し、継続的な育成を行うことで、対応力を高める

融合

成長

- 専門性の高い職能は確保しつつ、役割や能力を柔軟に組み合わせて活用することで横断的に融合したサービスを実施します
- 継続的な人材育成の仕組みをつくります

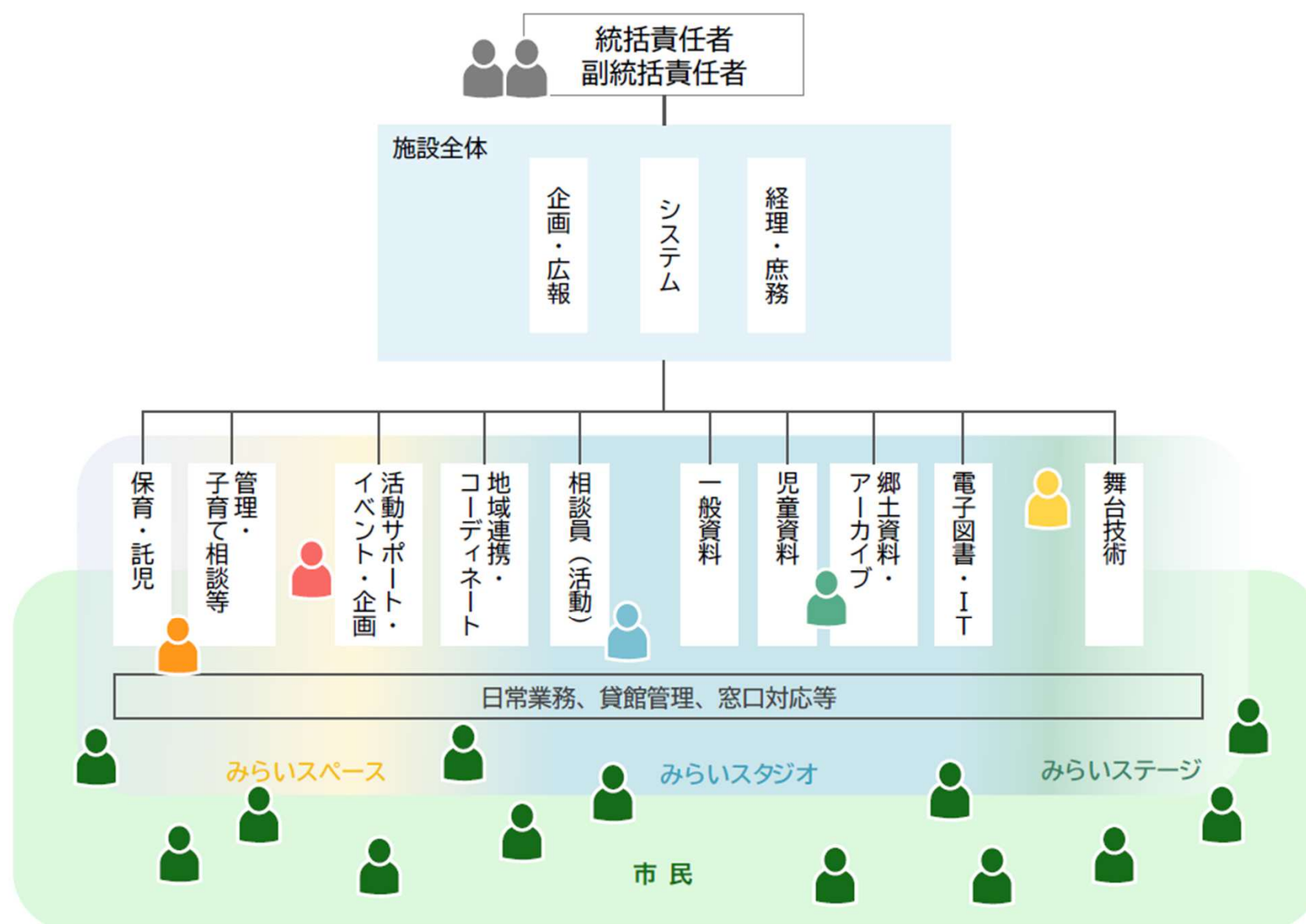
03 働く人が成長を実感でき、持続的に力を発揮できる環境づくり

融合

成長

- 柔軟な人員配置や働きやすさに配慮した労働環境を整備します

運営組織体制

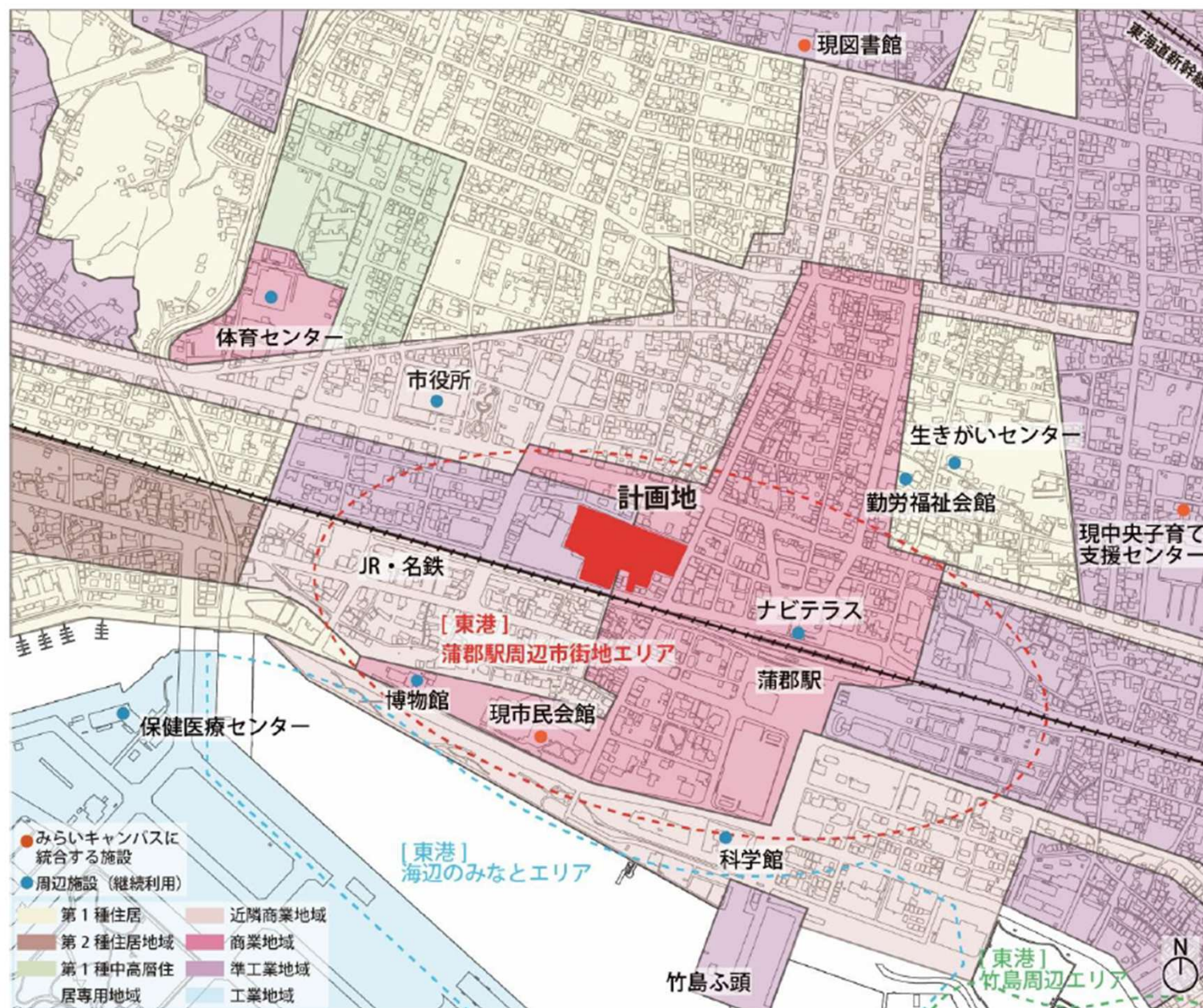


本施設の運営体制

- 本施設の運営は、市民と行政が共に
つくり、育てていくことを前提
- その上で、各分野の担当者が密接に
連携し、情報を共有しながら、施設全体
を一つのチームとして動かしていくよう
な体制が必要
- 分野を越えて横断的に見渡し、業務を
調整できる体制を想定

第7章 敷地計画

周辺敷地環境



- ・ 蒲郡市の中心エリアに位置
- ・ 蒲郡駅から徒歩4分
- ・ 商業地域と準工業地域にまたがる
- ・ 周辺には生命の海科学館や博物館、水族館など
- ・ みなとエリアや竹島エリアとの回遊性を生む拠点としてのあり方も検討

敷地概要

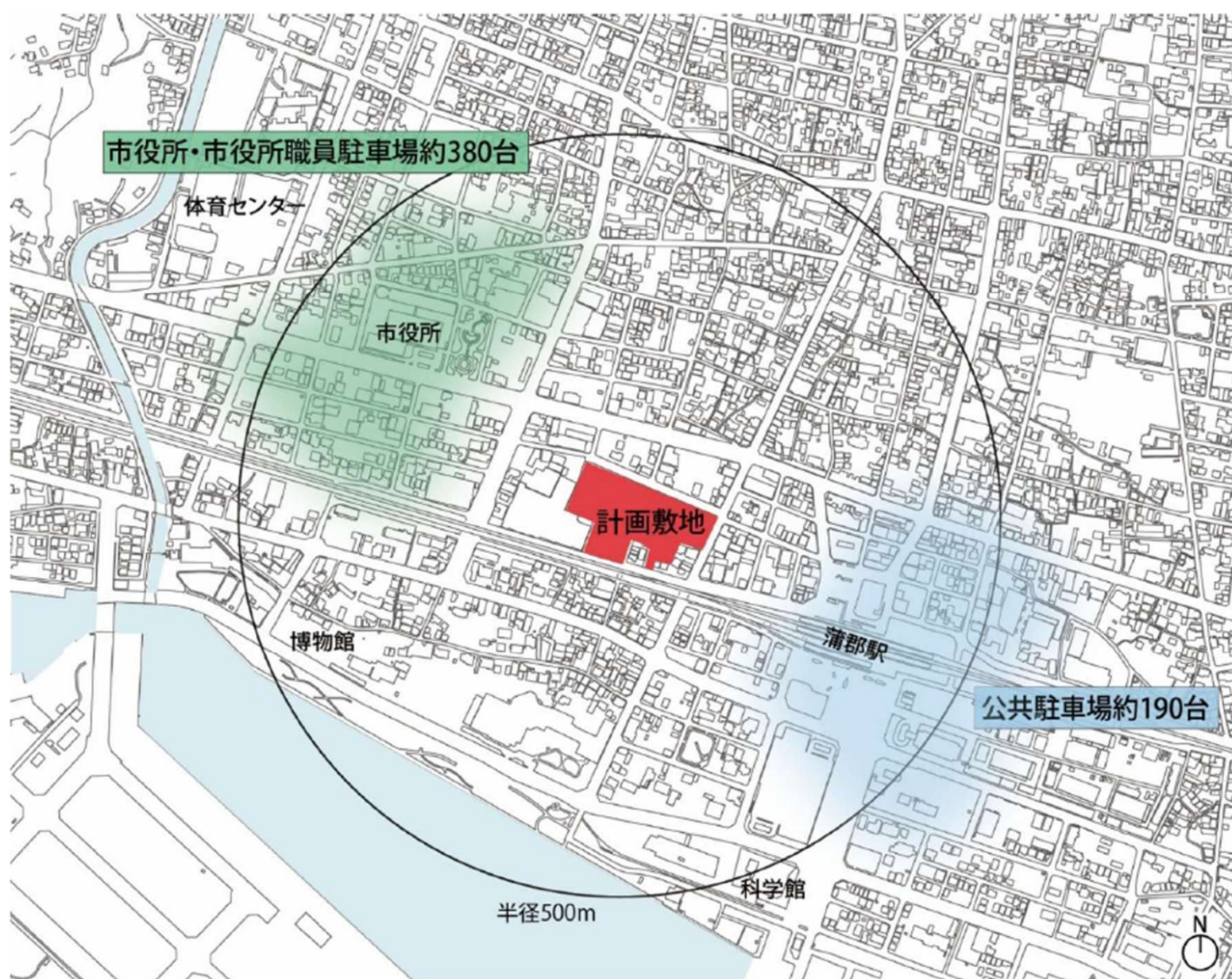


所在地	蒲郡市宝町の一部
事業地面積	約 14,600 m ²
都市計画等	東三河都市計画区域 市街化区域 用途地域:商業地域(事業用地の東側)及び準工業地域(同西側) 容積率:商業地域部分 400% 準工業地域部分 200% 建ぺい率:商業地域部分 80% 準工業地域部分 60% 防火地域:準防火地域、一部防火地域 その他:都市機能誘導区域、居住誘導区域
道路幅員	北側(市道宝町 19 号線):11m に拡幅 南側(市道宝町 22 号線、23 号線):最小幅員4.4m 東側((都)坂本線):12m
アクセス	蒲郡駅北口から徒歩約4分

- 事業用地に面する部分を11mに拡幅し、安全な歩行者動線と車両動線を確保
- 中央にある道は廃し、事業用地に取り込む予定

駐車場・駐輪場計画

周辺の駐車場整備状況



駐車場の台数

- 100～150台程度
- イベント時には市役所・市役所職員駐車場、公共駐車場等の周辺駐車場を活用

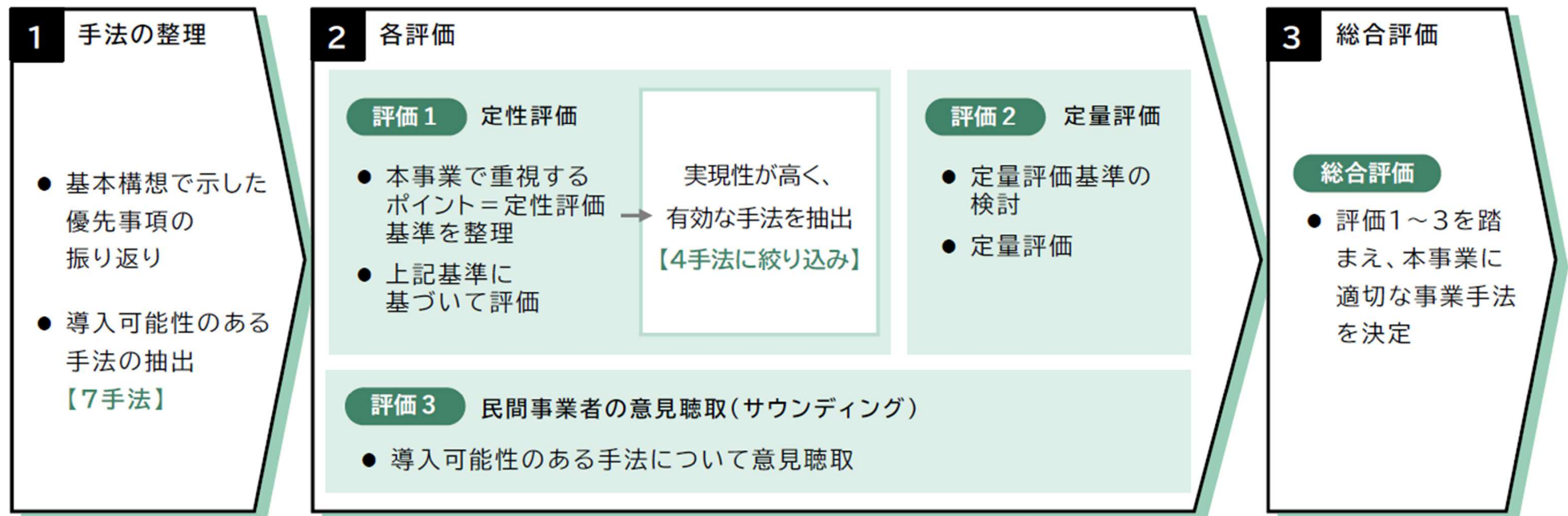
駐輪場の台数

- 20～60台程度
- イベント時には、JR高架下等、既設駐輪場の活用を検討

※今後の状況により変更することもあります。

第8章 事業化計画

事業化計画にあたって



- ・ 事業手法の決定にあたり、上の図のようにプロセスを踏んでいる
- ・ 定性評価:金額や個数といった数値で表せない物事に対して行う評価
- ・ 定量評価:各手法において同じサービスに対する費用削減効果による評価
- ・ 昨今の社会情勢から、民間事業者からの、実現性や市場性に関する意見を重視

DBO方式※¹について

- 早期(設計、建設段階)から運営者が地域に入り、整備と運営が一体となって市民との共創に着手することが期待できる。
- 設計、建設、維持管理、運営の事業全体を一括して発注することから、工期短縮や事業費の縮減効果が期待できる。また、性能発注※²を行うため、民間ノウハウの活用や創意工夫を受けることも期待できる。
- 民間事業者の意見聴取(サウンディング)では、DBO方式に対する運営者及び施工者の参画意欲も高いことが確認できたため、競争性の確保が期待できる。
- 高度な技術提案や民間事業者間での組成が求められるため、地元企業の主体的な参画は難しいが、資格要件や評価基準により参画を促せるよう今後工夫をしていく。

※1:DBO方式:施設の設計、施工、維持管理、運営を一括して性能発注する

※2:性能発注:どういう性能を満たすか、必要な能力などを決めて事業者の創意工夫を促す

概算事業費及びスケジュール

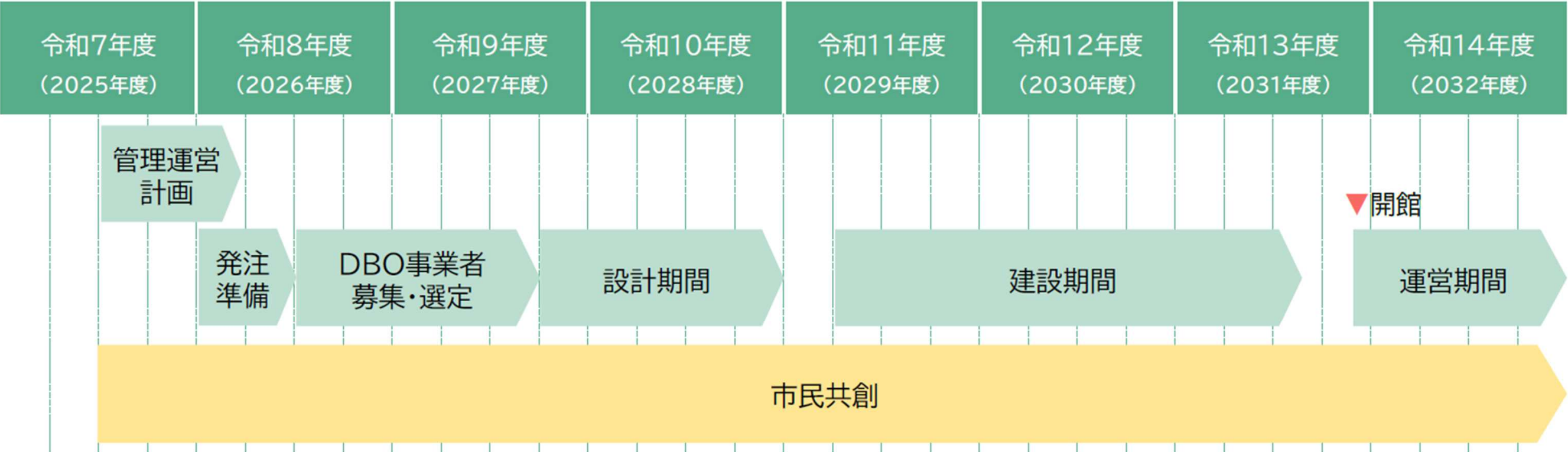
整備費

項目	金額
調査・設計・工事監理費	10.1 億円
建設工事費	177.3 億円
整備費	187.4 億円

※基本計画策定時点での各種基準及び建設物価に基づく試算額。
※建設工事費には、基本的な土地整備費、外構費を含む。
※別途費用については、土地取得費及びインフラ整備費（道路拡張工事を含む）として約 20 億円を概算費用として見込んでいる。システム関連費、備品費、図書費、開館準備等の費用については、今後において順次検討を行う。

- 整備費は今後の物価変動により変更となる可能性がある
- 維持管理・運営費は管理運営計画で精査し公表、いずれも発注に向けて精査
- 貸館運営における利用料金収入の拡大や民間収益事業の導入など民間事業者の経営ノウハウを積極的に活用し、市の財政負担の一層の縮減に向けた検討を行う

概算事業費及びスケジュール



開館は、令和13年度末ごろ(令和14年春)を予定

おわりにー市民共創のこれからー

みらいキャンバスは、 市民の「やりたい」を共に実現していきます



- がまごおり「みらいキャンバス」は、市民を主人公に様々な人々が関わり、蒲郡の未来を描く、巨大なキャンバス
- 従来のように「施設が出来上がってから何かがはじまる」のではなく、「市民の活動が施設づくりにつながる」
- 本計画は、施設の方針、そこで想定される事業・サービスや、必要な機能、それらを実現するために浮かび上がってきた施設像、その運営の方向性を定めたもの

共に考え、そして描いていく



- 本計画をまとめるにあたり、最も重要だったのは、市民参加型ワークショップで寄せられた市民の「やりたい」という意見やアイデア
- 市内の小学校の児童たちが本施設に関心を持ち、授業の中で「みらいの図書館」についてこどもたち自ら考えはじめる
- こどもたちが積極的に施設像について考え、その豊かな想像力から、様々な発想やアイデアが生まれた

これから開館までの歩みと市民共創



- 今後、開館までには、管理運営計画策定、基本設計、実施設計、工事、開館準備など、多くのステップがある
- そのすべての過程で、市民共創の流れを止めることなく、開館まで（もちろん開館してからも）、「やりたい」を継続的に反映させていく仕組みが必要
- ワークショップでの意見・アイデアをもとに、施設が完成するまで、市民が気軽に立ち寄れ、実際に活動できる拠点として、市民共創プラットフォームという「場」を立ち上げる

さいごに

- がまごおり「みらいキャンバス」は、これまでワークショップにご参加いただいた方々はもちろん、これから出会う方々と共につくりあげる施設です。
- これからも多くの皆様のご参加をお待ちしています。



みらキャンベース（仮称）が11/16オープンしました



- 開館前から市民が気軽に立ち寄れ、実際に活動ができる拠点「みらキャンベース（仮称）」が、令和7年11月16日（日）にオープンしました
- ここは、みんなが自由に“あつまり、すごして、つくって、よんで、かんがえて、はじめる”ための場です。ここで行われたことが、新施設のサービスやコンテンツ、空間づくりに活かされます

基本計画を経て

みらキャンベース（仮称）オープニングイベント



基本計画の説明は以上です。
ご清聴ありがとうございました。

蒲郡南部小学校による発表

質疑応答

このあと、みらキャンベース(仮称)を14時頃まで開放しています。
ご自由にお立ち寄りください。

住所 蒲郡市元町11-8(2階)



ご来場ありがとうございました

お気をつけてお帰りください。